

【INDEX】

◆視点

・森林を守り・育て・活かす技術開発に向けて

◆行事案内

・静岡県森林・林業研究センター振興協議会 記念講演会

◆研究情報

・水稲不耕起V溝直播栽培における省力除草体系の開発

・茶の細菌病「赤焼病（あかやけびょう）」

視点

森林・林業研究センター

森林を守り・育て・活かす技術開発に向けて

センター長 青島正明



当センターは、昭和32年に天竜林業地域の玄関口である浜松市浜北区に「林業試験場」として開設され、今年で58年目を迎えます。これまで、優良な系統苗木確認制度の確立、優良木材認証制度の創出など、「森林を守り、育て、活かすための技術開発」に重点を置き、その時代のニーズに対応した研究や技術開発を通じて、県内の林業・木材産業の発展に寄与してまいりました。

現在、金原明善翁をはじめ先人の努力により造成された人工林が、主伐期（伐採する時期）を迎え、森林資源の循環利用による持続的な森林経営を構築することが、強く求められています。

このため、皆伐を進めるための省力造林技術の開発として、高成長・高強度・少無花粉等の形質を併せ持つ「静岡型エリートツリー」としてのスギ優良品種開発や植栽時期を選ばないコンテナ苗による低コスト造林・育林技術の開発に取り組んでいます。さらに、野生鳥獣被害対策では、農業被害の中で最も多いイノシシ被害を軽減するための防護柵や効率的なわな具の開発や、森林整備地におけるシカの行動解明による、効率的な捕獲技術の開発などにも取り組んでいます。

また、県産材の需要と供給の一体的創造を実現するため、木材需要の拡大として、木材の弱点を改善し、住宅部材に加え、公共施設や民間商業施設に使用できる外構材や内装材等の新たな部材や製品の開発を進めています。また、供給面では、県内の森林資源の更なる循環利用を進めるため、大口需要者に対し、山から直接原木を円滑に供給するシステムの技術開発に重点的に取り組んでいます。

今後も、時代に即した研究や技術開発を進めるとともに、スピード感を持ったわかりやすい研究成果の情報提供に努めてまいりますので、皆様の一層の御支援をお願いします。

トピックス

行事案内 静岡県森林・林業研究センター振興協議会 記念講演会

テーマ「野生動物問題の最前線」（特にニホンジカとツキノワグマの問題と対策について）

- 1 期 日 平成27年8月7日(金) 13:40～15:50
- 2 場 所 静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター 大会議室（浜松市浜北区根堅 2542-8）
- 3 募集人数 80人（申し込み不要）
- 4 参加費 無料
- 5 プログラム

時刻	内 容	演 者
13:40～ 14:05	【森林・林業研究センター成果報告】 森林づくり一体型シカ管理の必要性	森林・林業研究センター森林育成科 イノシシ・シカ研究チームリーダー 上席研究員 大場 隆裕
14:05～ 14:30	【特別報告】 富士山国有林におけるシカ捕獲事業について	林野庁関東森林管理局 静岡森林管 理署 主任森林整備官 松坂 勝士
14:40～ 15:40	【記念講演】野生動物問題の最前線、 特にニホンジカとツキノワグマの問題と対策について	元・(株)野性動物保護管理事務所代表 取締役 羽澄 俊裕
～15:50	質疑応答	

研究情報

水稲不耕起V溝直播栽培における省力除草体系の開発

水田に直接イネの種籾を播き、育苗や田植え作業が省力できる「水稲直播栽培」は、全国的に取組が拡大しています。水稲直播栽培の一つである「不耕起V溝直播栽培」は、播種溝をV字にすることで、出芽前の鳥害防止や生育後期の倒伏抑制に効果があり、静岡県で最も多く行われている直播方法です。しかし、これ

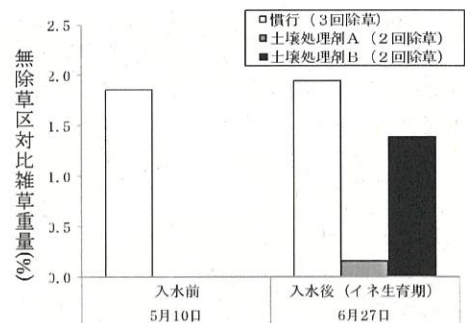


は、雑草防除を3回（1回目：非選択性除草剤、2回目：選択性茎葉処理剤、3回目：入水後の一発処理剤）行わなくてはならず、労力が多くかかり問題となっています。

そこで、農林技術研究所では、1回目の非選択性除草剤の処理時

に新たに土壌処理剤（これから芽を出す雑草を抑える除草剤）を同時処理することで、雑草防除回数を2回に低減させる技術を開発しました。これにより、従来の3回除草体系と同等以上の効果がある「省力除草体系」が実現し、平成27年度からは、中遠地域と志太榛原地域で、この省力除草体系を活用した不耕起V溝直播栽培が実施されています。

（農林技術研究所 作物科 研究員 井鍋大祐）



土壌処理剤AあるいはBを用いて除草回数を慣行の3回から2回へ軽減しても、慣行と同等以上の除草効果が得られました。

研究情報

茶の細菌病「赤焼病菌（あかやけびょう）」

茶に発生する病気の、多くは糸状菌（カビ）が原因となって生じますが、1つだけ細菌（バクテリア）が原因で発生する「赤焼病（あかやけびょう）」があり、赤焼病は、厳冬期～早春に発生する病気で、これ以外の時期は典型的な症状が観られず、厳冬期に入ってから突発的に多発するため、防除が手遅れになることが問題となっていました。



そこで、厳冬期～早春以外の時期における病原菌の生存場所を調査することで、伝染源の解明に取り組みました。

この結果、赤焼病は症状を多様に変化させながら、年間を通して発生していることが明らかになりました。さらに、時期を問わず、細菌病に特有の「水浸状」状態は病斑周囲に常に観察され、この「水浸状」の観察により、ほ場内で赤焼病発生の有無を確認することができるようになりました。また、既に登録のある銅剤の防除効果を高める技術や、銅剤以外の農薬の登録に向けた取組も実施しています。

（茶業研究センター 生産環境科 上席研究員 外側正之）

編集・発行 静岡県農林技術研究所
〒438-0803 静岡県磐田市富丘 678-1
TEL. 0538(36)1553 (企画調整部) FAX 0538(37)8466

URL : <http://www.agri-exp.pref.shizuoka.jp/>
E-mail : agrikikaku@pref.shizuoka.lg.jp